

健康影響評価の検討・整理の考え方について

粒子状物質の特性、曝露評価、生体内沈着・体内動態、毒性学研究の健康影響及び疫学研究の健康影響に関する知見を統合し、微小粒子状物質の影響メカニズムや有害性同定に関する健康影響の評価を記述する。

- 粒子状物質の大気・体内中の挙動に関する整理
 - 大気環境粒子の諸元、大気環境データ（濃度、成分、粒径等）の現状
 - 大気曝露濃度と個人曝露濃度の関連性
 - 吸入粒子の生体内沈着・体内動態挙動

- 適切な粒径のカットポイントの検証
 - 物理的・化学的要素からの検討（粒径分布、成分、粒子成長、寿命）
 - 曝露データからの検討（粒子の地理的均一性、室内への進入率）
 - 粒子の体内挙動からの検討（吸入粒子の呼吸器官における生体内沈着・体内動態の挙動）
 - 実態面からの検討（科学的知見の蓄積、測定方法の充実）

- 影響メカニズムのまとめ（毒性学知見）
 - 有害性同定に資する影響メカニズムの記述。（呼吸器・心血管器・免疫・発がん・発達毎の整理（成分・粒径・高感受性・共存汚染物質の要素毎の知見や吸入粒子の生体内沈着・体内動態の挙動に関する知見も考慮））

- 有害性同定に関する整理（疫学知見・毒性学知見の統合）
 - 疫学的知見により観察された結果に関して、毒性学知見で観察された知見と統合して生物学的妥当性及び整合性を検証。（呼吸器・心血管器・発がん等毎に整理するとともに、以下の事項も考察し記述。）
 - ・粒径（微小成分と粗大成分の違い）
 - ・成分
 - ・共存汚染物質の影響
 - ・閾値の有無の判定
 - ・感受性が高いと予測される集団（潜在疾患、年齢関連、性別、その他）
 - ・日本と欧米等諸外国の違い（大気環境、生活、人種）